

森の植物園へようこそ

当園は 1950 年に大阪市立大学の研究施設として開設し、植物学の基礎研究に必要な植物の収集・保存に努めてきました。なかでも、日本産樹木の収集には力を注ぎ、わが国の代表的な 11 種類の樹林型を復元しています。また、絶滅危惧植物の保全や研究者への収集物の提供を通じ、植物学の発展に貢献しています。



当植物園 元園長
三木茂博士

メタセコイアと 大阪公立大学附属植物園

植物園の元園長である三木茂(1901-1974年)は、従来マサギ属やセコイア属とされていた化石標本の中に、それらとは異なる植物が含まれていることを発見し、1941年にこれらを新属のメタセコイア属に含まれるとして発表しました。

1946年には、中国湖北省で神木とされていた針葉樹がメタセコイア属に含まれることが確認され、1948年にメタセコイア属の新種としてメタセコイアが記載されました。この出来事は「生きている化石」として世界的なニュースとなりました。

その後、アメリカのチェイニー博士らによる現地調査で採取された種子から育てられた苗木のうち一本が、1949年に昭和天皇に送られました。同年冬にはメタセコイア保存会が設立され、翌年には100本の苗木が日本に届けられました。そのうちの一本は当植物園に植栽

され、現在も外国産針葉樹木園でご覧いただくことができます。また、大阪市立大学(現・大阪公立大学)にはメタセコイア保存会が置かれ、当植物園を起点として、多くの苗木が全国各地へと広がっていきました。

メタセコイア1号木



施設概要

用地面積 255,300 m²
収集植物 約 2,700 種類
※2025 年現在

- あずまや
- 駐車場
- 案内所
- トイレ
- 車いす対応トイレ
- 非公開エリア



タケ・ササ園



乾燥地の植物



熱帯・亜熱帯の植物



水生植物



日本産樹木見本園

日本に自生している約 1,200 種の樹木のうち、約 230 種を園路に沿って「常緑広葉樹(照葉樹)」、「落葉広葉樹」、「針葉樹」の順に配置。山を登っていくように植生の垂直分布を体感することができます。

サクラ山



サクラ「御衣黄」



ムクゲ「七彩」

水上勉の小説『櫻守』のモデルとしても知られる笹部新太郎氏によって原型が造られました。7 種の野生種と園芸品種を集めています。「御衣黄」など緑のサクラもご覧いただけます。

絶滅危惧種保全の取り組み

現在、地球上の植物の約 20% が絶滅の危機にあり、その保全は大きな社会課題になっています。

当園は環境省より「認定希少種保全動植物園等」に認定されており、研究機関、自治体、市民団体の協力を得ながら、主に西日本の絶滅危惧植物を収集し、生育域外での保護と株の増殖に挑戦しています。



キイジョウウロウホトトギス



ウメハチソウ



アラゲタケ



ススカケソウ

一部は、「西日本絶滅危惧植物」エリアでご覧いただけます

暖帯型落葉樹林

コナラやシデ類などから構成されています。冬の寒さのために照葉樹林が生育できない地域や、夏の暑さのために温帯落葉樹林が生育できない暖温帯の低山地に広く分布しています。日本の森林帯の特徴である中間帯の森林の1つであり、日本の里山の景観を作っています。



温帯南部型落葉樹林

ブナ、ミズナラ、ケヤキなどから構成されます。本園では、ケヤキが優占種の森林をモデルにしています。

温帯北部型落葉樹林

ミズナラ、カツラなどから構成され、北海道の中北部に分布しています。温帯林の代表樹種であるブナを含まない森林です。

アカマツ型針葉樹林

本来は花こう岩地帯の乾燥した尾根筋や急斜面に小面積状に分布していたと考えられています。現在では、二次林として照葉樹林帯に広く分布しています。

モミ・ツガ型針葉樹林

暖帯中部の照葉樹林と、温帯下部の落葉広葉樹林との間に分布しています。一般的に太平洋岸ではツガ林が多く、内陸部ではモミ林がよく発達しています。日本海側ではこの樹林型の分布は見られません。

ヒノキ・サワラ型針葉樹林

暖帯から温帯にかけて分布しています。日本の代表的な有用材であるスギ、ヒノキの天然林はこの型に属します。



入園に関するおねがい

- ① ゴミは各自お持ち帰りくださるようお願いします。
- ② 園内へのペットの持ち込みは禁止しています。
- ③ ボール遊びやバドミントンなどの遊戯は禁止しています。
- ④ 園内で動植物を採集することは禁止しています。
- ⑤ 園内へ許可なく動植物を持ち込むことは禁止しています。
- ⑥ 焚き火や酒宴はできません。
- ⑦ 当園敷地内での喫煙は禁止しています。

ご利用案内

【開園時間】 9:30～16:30 (入園は16:00まで)

【休園日】 毎週月曜日 (ただし休日の場合は開園)
年末年始 (12/28 から 1/4)

【入園料】 大人 400 円 (中学生以下 無料) 年間パスポート 1200 円
※障がい者手帳等をお持ちの方と介助者 1 名 無料 (要証明)
※公立大学法人大阪の設置する大学等に在籍する学生 無料 (要学生証)
※団体 (30 人以上) 利用 大人 320 円 (要事前申請)
※大阪府内在住の 65 歳以上の方 300 円
(要証明 免許証、マイナンバーカード等の原本)

【駐車場】 普通乗用車 500 円、マイクロバス 1000 円、バス 2000 円

【アクセス】 ・京阪電車交野線「私市 (きさいち)」下車、徒歩約 6 分
・JR 学研都市線「河内磐船」下車、徒歩約 20 分



大阪公立大学附属植物園
〒576-0004 大阪府交野市私市 2000
TEL 072-891-2059
FAX 072-891-2101
URL <https://www.omu.ac.jp/bg>



ご寄付のお願い

これからの植物園は、「自然の再生」「教育や福祉への貢献」「緑あふれる街づくり」をめざし、さらに活動を広げていきます。植物や自然を大切に思う皆さま、そして未来の世代に緑を残したいと願う皆さまからのご協力を心よりお待ちしております。

■OMU基金についてのお問い合わせ
公立大学法人大阪 渉外企画課 (基金担当)
TEL 06-6967-1836



寄付のお申込みはこちら

日本の代表的な樹林型を再現展示

タブ型照葉樹林

タブノキやクスノキなどを主とし、照葉樹林帯の海岸に近い低地や山地に分布しています。まるく盛り上がった樹冠が特徴で、夏に雨の多い日本の暖帯林の代表的な森林です。日本の稲作文化は、この照葉樹林の地域から発達したといわれています。



シイ型照葉樹林

ツブラジイ、スダジイ、アラカンなどから構成されます。地形的に排水がよく、土壌が比較的乾燥する場所に分布しています。かつては近畿や中国地方の平地にも広く分布していましたが、大部分は農耕地や人間の居住地域となり、現在では社寺林などにその面影が残されています。



海岸型照葉樹林

九州、四国、本州の照葉樹林帯の海岸地方に分布する常緑広葉樹林で、ウバメガシトベラ、シャリンバイなど、乾燥した土壌や潮風に耐えることのできる小型のかたい葉や厚い葉をもつ植物が多いのが特徴です。

低地カシ型照葉樹林

イチイガシやツクバネガシなどからなり、照葉樹林の中ではもっとも広く分布しています。農地化・都市化により、もとの面影をとどめる森林はきわめて少なくなっています。

高地カシ型照葉樹林

ウラジロガシ、シラカシ、アカガシなどからなり、照葉樹林帯の山地の中で低地カシ型林やシイ型樹林の上部に見られます。内陸部の山地の斜面に分布し、九州の高地・近畿・中国地方の山地に多く見られます。

大阪公立大学附属植物園

Botanical Gardens, Osaka Metropolitan University